

I 実践

1 本校の人権教育についての目標

- (1) 個人の尊厳について自覚を促し、お互いを大切にしよう生徒を育てる。
- (2) 自ら考え判断する力を養い、物事を正しく判断し行動できる生徒を育てる。
- (3) 相互理解を深め、自他の人権を大切にしたい望ましい人間関係を築こうとする生徒を育てる。

2 本校の人権教育の課題

人権教育の全体計画にのっとった実践を積極的に推進する指導体制の確立

3 実践内容

(1) 互いのよさを認め合い、自己肯定感を高める「校長賞」の授与

本校では、3つの「時間を守る（とき）、迷惑をかけない（めい）、他人の役に立つことをする（た）」という目標のもと、生徒と教師が同じ目標に向かって行動するように心がけている。特に、「他人の役に立つ」という目標に向けた一人一人の頑張りを賞賛し、生徒一人一人が互いのよさと自己のよさを認める気持ちを高めるため、「校長賞」を授与している。「熱心な清掃への取り組み」「友人を思いやる行動」「快いあいさつ」など、日常の中で、教師が生徒の良い点を見つけ、推薦している。また、また、1年間で全員が受賞できるようにすることをめざし、今年度はそのような行動ができるような「しかけ」も実践してきた。

（資料1）



資料1：校長賞授与のようす

(2) いじめ防止フォーラムの実施

生徒会が主催、企画した「いじめ防止フォーラム」を開催した。開催前にいじめ防止のスローガンを募集し、当日は優秀標語の表彰を行った。フォーラムでは、はじめに全校で「見て見ぬふりをしない」をテーマにしたアニメを視聴し、縦割り班で輪になって、このテーマに対する意見を交換した。いじめ防止について全校が一つになって考える場がもてたこと、またその場が、生徒のほうからの企画によるものだったことに大きな意味がもてた。（資料2）



資料2：いじめ防止フォーラムのようす

(3) 学区内公園クリーン作戦の実施



資料3：学区内公園クリーン作戦のようす

本校は、伝統的に地域ボランティアとして、「古紙回収」に取り組んでいる。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大による感染症対策のため、地域の家庭に訪問して行うこの行事は中止とした。すると生徒から、地域のために別の形で何かできないかということで、この「学区内公園クリーン作戦」が企画された。

地域は、団地で囲まれており、たくさんの公園が点在している。高齢者が多く場所によっては清掃が行き届いていないところもあり、生徒から「ぜひきれいにして地域に貢献したい」という声があがった。

生徒会がクラスごとに公園を割り当て、土曜授業の日に全校で実施した。生徒は集めたゴミを細かく分別し、達成感を得た表情をしていた。

(4) 人権問題啓発映画「ホーム」の視聴

茨城県教育委員会が作成した人権問題啓発映画「ホーム」を全校級で視聴し、映画の中にあるテーマ「同和問題」「国籍や性別、障害者などに対する差別問題」に対する考えを話し合った。また、添付資料のワークシートを活用し、振り返りを行った。(資料4)

『ホーム』ワークシート	『ホーム』ワークシート
人権とは何でしょうか？ また、人権が無い社会はどのような事になると思いますか？ A. 差別や偏見がなくなり、みんなが平等になれる。 自分の身の回りに、どのような人権問題があると思いますか？ A. 障害のある人が通学しにくい。 多くの人権侵害がインターネット上に掲載されています。どのようなものがありますか？ A. ネット上でいじめや差別が横行している。 ドラマの登場人物たちは、出会いや交流を通して、どのように変わったと思いますか？ A. 差別意識を取り除き、互いに理解し合えるようになった。 ドラマを見て、差別意識の解消のために大切なことは何ですか？ A. 互いに理解し合うこと、差別意識を取り除くこと。 「人権を尊重し、多様性を認め合う社会」とは、どのような社会だと思いますか？ A. 差別がなく、みんなが平等に暮らせる社会。	人権とは何でしょうか？ また、人権が無い社会はどのような事になると思いますか？ A. 人々を差別し、自由を奪われる。 自分の身の回りに、どのような人権問題があると思いますか？ A. 差別意識、偏見。 多くの人権侵害がインターネット上に掲載されています。どのようなものがありますか？ A. 差別、いじめ。 ドラマの登場人物たちは、出会いや交流を通して、どのように変わったと思いますか？ A. 差別意識を取り除き、互いに理解し合えるようになった。 ドラマを見て、差別意識の解消のために大切なことは何ですか？ A. 互いに理解し合うこと、差別意識を取り除くこと。 「人権を尊重し、多様性を認め合う社会」とは、どのような社会だと思いますか？ A. 差別がなく、みんなが平等に暮らせる社会。

資料4：「ホーム」のワークシート

4 成果

- 学校生活アンケートで、本校の3つの目標である「時間を守る（とき）、迷惑をかけない（めい）、他人の役に立つことをする（た）」のうち、「めい」ができたと答えた生徒80%、「た」ができたと答えた生徒70%だった。また、校長賞は全員に授与することができた。
- 生徒が主体的に計画、運営して「いじめ防止フォーラム」を実施することができたことは、互いに人権を尊重し合う心の醸成につながる成果だった。
- 「ホーム」の全校視聴は、現代にはさまざまな人権問題があることを生徒に知らせるよいきっかけとなった。

II 今後の課題

- 自己肯定感について、学校生活アンケートで、「自分にはよいところがあると思う」という質問に対し、「そう思う」が73%であった。自分のよさを認め、自信をもって学校生活を送ることができるような教育活動を展開したい。
- 校長賞の価値について、授与基準などを見直し、受賞することが目的にならないよう、教職員が共通理解して推進する必要がある。
- 言葉遣いやあいさつの仕方など、相手のことを考えて発信できるよう、指導場面の工夫を図っていく。
- 生徒主体の人権教育の活動をさらに増やしていく。

III 人権コーナーの設置の様子

人権コーナーには、月の道徳計画、道徳で使った資料、授業の感想、魔法の言葉を掲示している。魔法の言葉は、定期的に、自分の今を振り返り、支えとなるような言葉を掲示している。授業の感想では、主に道徳の授業で考えた思いやりや命の大切さなどの生徒の感想を掲示し、人権感覚の育成を図っている。

(資料5)



資料5：人権コーナー